



最上エコポリスの実現
=豊かな自然 輝くもがみ=

小国川だより

最上小国川治水対策について、お知らせします。

小さなダム・大きな仕事 最上小国川ダム

第20号

平成22年4月21日発行

山形県 最上総合支庁
建設部 河川砂防課

第5回最上小国川流域環境保全協議会を開催しました



【協議項目】

- 1) 第4回協議会における指導事項と対応
- 2) 今年度の環境調査状況について
- 3) 環境影響予測の考え方について
- 4) アユの生息にかかる環境影響予測の考え方について
- 5) 今後の調査・評価方法について

3月19日(金)午後1時半から、最上総合支庁5階講堂において、第5回最上小国川流域環境保全協議会を開催しました。

今年度調査結果の報告と動植物への影響予測について、ご検討をいただきました。今回の協議会には11名の委員にご出席いただきました。

第20号ではその概要についてご紹介いたします。

◇第5回環境保全協議会では、左記の【協議項目】について説明し、各委員から活発な意見をいただきました。

環境保全協議会は、最上小国川の豊かな環境を守るための方策を検討します

1) 第4回(前回)協議会における指導事項と対応

【主な指導事項】

- ① 出水による攪乱とアユのはみあとについて、データの蓄積による理論的な説明が必要である。
- ② アユの餌資源としての質の差の原因を追求するため、流速と濁りの調査が必要である。
- ③ 湛水時後半の濁りについて、課題を整理すること。
- ④ 工事中に想定される課題と対応を具体的に提示して欲しい。
- ⑤ 生息が確認されたマグソクワガタと、確認できなかったヒメギフチョウについても、継続調査が望まれる。

【対応】

- ➡ ① 調査を継続し、専門家の意見をいただきながらまとめていきたい。
- ➡ ② これまで調査した流速と濁りのデータを確認した上で、関連性を確認していきたい。
- ➡ ③ これらの課題について、検討し整理していきたい。
- ➡ ④ 今後も検討し、提示したい。
- ➡ ⑤ 継続調査を検討する。

2) 今年度の環境調査状況について

猛禽類(もうきんるい)の調査について

前回の第4回環境保全協議会では、7月までの調査結果の中間報告を行ったため、今回は、その後、3月までに行った調査結果を報告しました。

クマタカAペアは、交尾行動が見られ、繁殖の可能性が出ています。クマタカC個体は、巣作りに見られる枝折り行動が確認されましたが、ペアとしては、確認できていません。

●専門家の意見

- ・クマタカAペアは、営巣場所により保全対策の必要性、その方法を検討する必要がある。
- ・クマタカC個体は、ペアの可能性が高い。ダム事業による繁殖への影響はないと考えられるが、行動圏への軽微な影響は考えられる。
- ・オオタカについては、営巣場所はダムから離れた場所であり、工事による影響は考えられない。
- ・ハイタカは、春以降の指標行動で営巣地を確認する必要がある。

〔事務局：今後もモニタリング調査を継続する。〕

藻類(そうるい)の調査について

藻類の調査結果についても、前回報告以降の調査結果を報告しました。

10月に出水があったことで、これまでと同様に、石についた藻がはがれて、新しい藻に更新されていることが確認されました。

また、前回報告しましたが、既にできている流水型ダムとして、レン滝ダムについても調査した結果、最上小国川と同様に、藻の更新が行われていることが、明確に確認されました。

●専門家の意見

- ・珪藻と藍藻の存在形態や適温などの一般的生態の違いに留意して検討・考察する必要がある。今後の検討に有意な基本データになるものであり、データの継続性を尊重して、今後も調査を継続してほしい。

〔事務局：一般的生態に留意して、検討・調査を継続する。〕

3) 環境影響予測の考え方について

前回の第4回環境保全協議会で検討して、決めていただきました環境影響予測の方法と、専門家の方々のアドバイスにより、動植物の重要種等への影響を判定しました。

動物では、重要種は109種が想定されていましたが、環境の変化に伴う影響が大きいと判断されたのは、1種で、専門家の方から、環境変化による影響は少ないものの、配慮した方がよいとアドバイスしていただいたものが4種ありました。

また、植物の重要種は84種が想定されてきましたが、環境の変化に伴う影響が大きいと判断されたのは、2種でした。

●専門家の意見

- ・ヒメギフチョウは、ダム周辺に生息環境があるので、調査を継続して欲しい。
- ・マグソクワガタについては、湛水域外に生息している個体数が重要である。また、卵は数十～百個単位で産むため、回復力は強く、試験湛水後に回復する可能性は高い。
- ・ワタナベカシハについては、情報不足種であり、その分布・生態には不明な点が多い。近年、最上地区で多数の生息が確認されている。
〔事務局：意見を参考に調査していきたい。〕
- ・環境影響予測の手法・予測結果については適切と考える。

4) アユの生息にかかる環境影響予測の考え方について

ダム建設によるアユへの影響については、下記の4点が考えられます。

1) 水温、2) 溶存酸素、3) 富栄養化、4) 濁度
この中で、1～3については、ダム設置後も、設置前とほぼ同じ状態と考えられます。

課題となるのは、4の濁度についてです。

濁度については、今後、5つの出水パターンで、解析を行う予定です。

また、アユの専門家として、その生態を長年にわたり調査され、県内の多くの河川でも調査等を行っている石田カ三氏を、アドバイザーとして依頼することに、委員の皆様から同意をいただきました。

石田氏は、水産環境研究所を主宰され、県内でも魚道設計など、魚類に関係する検討に携わるとともに、アユに関する多くの御著書を著されています。

5) 今後の調査・評価方法について

今後の調査や評価等について、報告しました。

【調査内容】

- ・早春の猛禽類調査
- ・雪解け前後の藻類調査
- ・雪解け・代かき期の水質・濁度調査
- ・昆虫類調査

【検討内容】

- ・ダム供用による濁水の影響の検討
- ・ダム供用によるアユへの影響の検討

●専門家の意見

- ・濁水シミュレーションの前提条件の与え方、考え方などを次回協議会で丁寧に説明してほしい。
- ・ダムサイト直上流の砂防ダムよりも水位が高い場合、低い場合について、その影響がどのように及ぶかを次回協議会で丁寧に説明してほしい。

最上小国川ダム説明会を開催しました

3月27日(土)と28日(日)の二日にわたり、最上小国川ダムの説明会を開催しました。

27日は新庄市民プラザで、28日は山形ビッグウイングで、ともに午後1時から開催しました。

県民の方々に、これまでの経緯などについて、説明しました。全体の出席者は約200名(新庄会場約140名、山形会場約60名)でした。

なお、今後、ダムの検証後にも説明会を開催したいと考えています。



「最上小国川流域の治水と活性化を考える懇談会」を開催しました

3月29日(月)午後1時半から、県庁講堂において、「最上小国川流域の治水と活性化を考える懇談会」を開催しました。

この懇談会は、あくまでもダム事業そのものを検討いただくものではなく、流域の活性化やその礎となる治水対策について、専門家や地元代表などから、ご意見をいただき、地域の視点から総合的に検討するものです。

なお、この内容は、今後国が示す新基準で事業検証を行う際に、反映させていきたいと考えています。



発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課
最上小国川ダム建設室 佐藤・後藤
〒996-0002
山形県新庄市金沢字大道上 2034
お問合せ先 電話 0233-29-1407
Email - 【前画面を参考にして下さい。】

バックナンバーは県HPからダウンロードできます。
アドレスは下記のとおりです。

http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami_bo/news/news/7314074ogunigawa_news.html